



## 初期設定

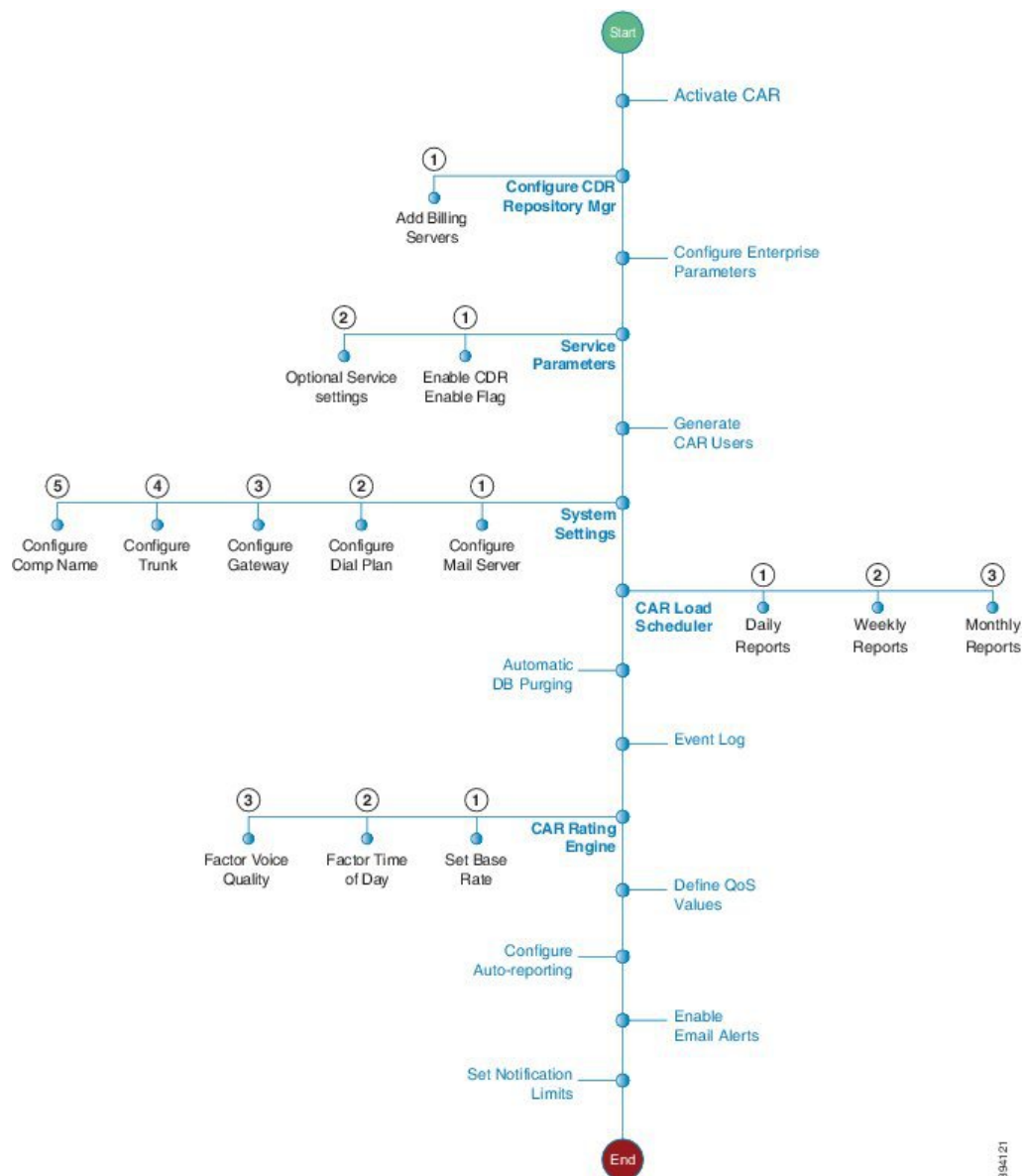
---

- [CDR Analysis and Reporting 設定の概要](#) (1 ページ)
- [CDR Analysis and Reporting の初期設定](#) (2 ページ)

## CDR Analysis and Reporting 設定の概要

次の図は、Cisco CDR 分析およびレポートの初期システム設定を示しています。

図 1 : CDR Analysis and Reporting の初期設定



## CDR Analysis and Reporting の初期設定

Cisco CDR 分析およびレポートの初期設定の一部として、これらのタスクを完了します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<a href="#">CAR のアクティブ化 (5 ページ)</a>	次の機能をアクティブにします。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco CAR Web Service</li> <li>• Cisco SOAP : CDRonDemand</li> </ul>
ステップ 2	CDRリポジトリ マネージャのファイル保存設定を構成する (6 ページ)	CDR リポジトリ マネージャのディスク使用率とファイル保存パラメータを設定します。
ステップ 3	アプリケーション課金サーバのセットアップ (6 ページ)	CDR レコードをアプリケーション課金サーバに送信する場合は、この手順を使用します。最大 ~ 8 台の課金サーバを構成できます。
ステップ 4	CDR エンタープライズパラメータの設定 (8 ページ)	CDR のオプションのエンタープライズレベルのパラメータを構成します。
ステップ 5	CDR サービス パラメータの設定 (9 ページ)	CDR を生成するには、 <b>CDR 有効フラグ</b> を <b>True</b> に設定する必要があります。また、CDR のオプションのサービスパラメータを設定します。
ステップ 6	CAR ユーザの生成 (10 ページ)	CAR 管理者、マネージャ、およびユーザを生成します。
ステップ 7	CAR にログオンする (13 ページ)	Cisco CDR Analysis and Reporting ツールにログオンします。
ステップ 8	適用するシステム・パラメーターを構成します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• メールサーバパラメータの設定 (18 ページ)</li> <li>• ダイヤルプランの設定 (18 ページ)</li> <li>• ゲートウェイの設定 (22 ページ)</li> <li>• トランクの設定 (23 ページ)</li> <li>• システム設定の設定 (24 ページ)</li> </ul>	展開に適用する CAR システムパラメータを設定します。ほとんどの展開では、デフォルト値で問題ありません。
ステップ 9	CDR ロード スケジュールの設定 (25 ページ)	CAR が CDR をロードする場合に、ロードスケジュールを設定します。
ステップ 10	次のレポートのスケジュールを構成します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 日報のスケジュール (27 ページ)</li> <li>• 週報のスケジュール (28 ページ)</li> </ul>	日次、週次、月次レポートのスケジュールを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
	<ul style="list-style-type: none"> <li>月次報告のスケジュール (29 ページ)</li> </ul>	
ステップ 11	自動データベース消去の設定 (35 ページ)	システムが CDR ファイルを自動的にパージする場合のルールを設定します。
ステップ 12	イベント ログの生成 (37 ページ)	イベント ログの生成を設定します。
ステップ 13	CAR 評価エンジンを設定します。適用するパラメータを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>基本レートの設定 (42 ページ)</li> <li>時刻のファクタ (43 ページ)</li> <li>音声品質のファクタ (44 ページ)</li> </ul>	通話のコストに対する基準金額を設定します。時刻および音声品質を要因として適用することで、コストをさらに適正化できます。
ステップ 14	QoS 値の定義 (45 ページ)	ジッタ、遅延、および損失パケットの許容範囲を設定します。
ステップ 15	自動生成レポートのイネーブル化 (49 ページ)	自動的に生成するレポートのルールを構成します。
ステップ 16	電子メールアラートの有効化 (51 ページ)	充電制限通知と QoS 通知に対する電子メールアラートを有効にします。
ステップ 17	通知限度の設定 (51 ページ)	ユーザーの 1 日あたりの課金が最大料金を超えたとき、および QoS が指定された制限を下回った場合に通知を設定します。
ステップ 18	ロケールのインストール	これはオプションです。ユーザがローカライズ済みのユーザ レポートやマネージャ レポートを利用することを希望している場合は、必要なロケールをインストールします。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。
ステップ 19	DRS バックアップの実行	データベースと事前に生成されたレポートを含め、CAR をバックアップします。バックアップの実行方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

### 次のタスク

CAR ツールを設定したら、配信する個々のレポートと、レポートを送信する相手を設定します。次の種類のレポートを構成できます。

- ユーザ レポート
- システム レポート
- デバイス レポート

## CAR のアクティブ化

Cisco CDR Analysis and Reporting (CAR) は補完的なサービスのグループで構成されており、これらのサービスは、Cisco Unified Serviceability の [サービス アクティベーション (Service Activation)] ウィンドウでアクティブ化できます。Cisco Unified Serviceability の [ツール (Tools)] メニューから CAR を起動できるようにするには、次の手順に従って、CAR サービスをアクティブにする必要があります。

### 始める前に

Cisco CDR 分析およびレポート(CAR)は、デフォルトで実行されている次のネットワーク サービスも使用します。Cisco Unified Serviceability の [ツール (Tools)] - [ネットワークサービス (Network Services)] ウィンドウで、これらのサービスが実行されていることを確認できます。

- Cisco CDR Repository Manager
- Cisco CDR Agent
- Cisco CAR Scheduler
- シスコ SOAP - コールレコード サービス
- Cisco CAR DB

### 手順

**ステップ 1** [ツール (Tools)] > [サービス アクティベーション (Service Activation)] を選択します。

**ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスからパブリッシュ ノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

選択したサーバのサービス名、サービスタイプ、およびサービスのアクティベーションステータスがウィンドウに表示されます。

**ステップ 3** 次の CDR サービスの隣にあるチェックボックスをオンにします。

- a) **Cisco SOAP-CDRonDemand Service (オプション)**。HTTPS または SOAP インターフェイスを通じて CDR データにアクセスするサードパーティ製の課金アプリケーションを使用している場合は、このサービスをアクティブにします。
- b) **Cisco CAR Web Service**

ヒント CDR サービスの隣にあるチェックボックスをオフにして[更新 (Update)] をクリックすると、サービスが無効になります。Cisco CAR Web サービスを無効にすると、Cisco Unified Serviceability の [ツール (Tools)] メニューから CAR が削除されます。

**ステップ 4** 必要な変更を完了したら、[保存 (Save)] をクリックします。

(注) Axis1 Web サービスで CDRonDemand サービスを実行している場合は、CDR onDemand サービスをアクティブ化するには、ルート レベルでコマンド `/usr/local/cm/bin/soapservicecontrol2.sh CDRonDemandService CDRonDemand deploy 8443` を実行する必要があります。

---

## CDR リポジトリ マネージャのファイル保存設定を構成する

CDR リポジトリ マネージャのディスク使用率とファイル保存設定を構成するには、次の手順を使用します。フィールドの説明については、オンラインヘルプを参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** [ツール (Tools)] > [CDR管理 (CDR Management)] を選択します。

**ステップ 2** 変更する CDR Manager 一般パラメータ値をクリックします。

**ステップ 3** 新しいパラメータ設定を入力します。

**ステップ 4** [更新 (Update)] をクリックします。

ヒント いつでも [デフォルトの設定 (Set Default)] をクリックしてデフォルト値を指定できます。デフォルトの設定後、[更新 (Update)] をクリックしてデフォルト値を保存します。

---

## アプリケーション課金サーバのセットアップ

CDR の送信先となるアプリケーション課金サーバを導入するには、次の手順を使用します。最大 3 台の課金サーバを設定できます。

### 暗号サポート

Unified Communications Manager 11.5 では、Unified Communications Manager は SFTP 接続用に次の CBC および CRT 暗号をアドバタイズします。

- aes128-cbc
- 3des-cbc
- aes128-ctr

- aes192-ctr
- aes256-ctr



(注) Unified Communications Manager との通信のために、バックアップ SFTP サーバーがこれらの暗号のいずれかをサポートしていることを確認してください。

Unified Communications Manager 12.0 リリース以降では、CBC 暗号はサポートされていません。Unified Communications Manager は、次の CTR 暗号のみをサポートおよびアドバタイズします。

- aes256-ctr
- aes128-ctr
- aes192-ctr



(注) バックアップ SFTP サーバーが Unified Communications Manager との通信のためにこれらの CTR 暗号のいずれかをサポートしていることを確認します。

#### 手順

**ステップ 1** [ツール (Tools) ]>[CDRの管理設定 (CDR Management Configuration) ]の順に選択します。

[CDR Management Configuration] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかの操作を行います。

- 新しいアプリケーション課金サーバを追加するには、[新規追加 (Add new) ] ボタンをクリックします。
- 既存のアプリケーション課金サーバを更新するには、サーバのホスト名/IP アドレスをクリックします。

**ステップ 3** アプリケーション課金サーバのパラメータ設定を入力します。

**ステップ 4** [追加 (Add) ]または[更新 (Update) ]をクリックします。

## 課金サーバ認証についての問題

SFTP を使用した課金サーバを展開しており、Unified Communications Manager と課金サーバの両方でデフォルト以外の暗号を使用している場合、Unified Communications Manager サーバを再起動した際、または Cisco CallManager サービスを再起動した際に、接続の問題が発生する可能性があります。その際には、課金サーバは認証されず、接続が切断されます。

再起動後には、Unified Communications Manager はデフォルトの暗号のみをアドバタイズし、インストールした新しい暗号はアドバタイズしません。そのため、デフォルト以外の暗号を使用している場合は、認証の問題が発生します。上記の問題が起こった場合は、新しいキーを生成し、接続をいかなの手順でリセットします。

#### 手順

**ステップ 1** [ツール (Tools)] > [CDR管理 (CDR Management)] を選択します。

[CDR Management Configuration] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 課金アプリケーション サーバパラメータ で、課金サーバを検索します。

**ステップ 3** リセット をクリックして、課金サーバに対する新しいキーを生成します。

リセット後に、Unified Communications Manager は、デフォルトの暗号およびその他の追加の暗号でアドバタイズします。通信を復元するには、課金サーバに以下のいずれかの暗号がインストールされている必要があります。

## CDR エンタープライズパラメータの設定

次の手順に従って、CDR のオプションのエンタープライズパラメータを設定します。詳細なフィールドの説明については、GUI のパラメータ名をクリックして、エンタープライズパラメータヘルプにアクセスします。

#### 手順

**ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。

**ステップ 2** [CDRパラメータ (CDR Parameters)] で、次のパラメータの値を設定します。詳細なフィールドの説明については、GUI でパラメータ名をクリックします。

- **CDR File Time Interval** : CDR データを収集する際の時間間隔を指定します。たとえば、値 1 は、各 CDR ファイルに 1 分の CDR データが含まれていることを意味します。
- **Cluster ID** : クラスタの固有識別子を割り当てます。

**ステップ 3** [CCM Webサービスパラメータ (CDR Web Service Parameters)] で、次のパラメータの値を設定します。

- **Allowed CDRonDemand get\_file Queries Per Minute** : 1 分あたりの CDRonDemand get\_file クエリの最大数を設定します。
- **Allowed CDRonDemand get\_file\_list Queries Per Minute** : 1 分あたりの CDRonDemand get\_file\_list クエリの最大数を設定します。



ステップ4 [保存 (Save) ]をクリックします。

## CDR サービス パラメータの設定

CDR 分析およびレポートのサービス パラメータを設定するには、次の手順を使用します。たとえば、CDRが生成される CDR フラグは**True**に設定する必要があります。

### 手順

ステップ1 Cisco Unified CM の管理から、[システム (System) ]>[サービス パラメータ (Service Parameters) ]の順に選択します。

ステップ2 [サーバ (Server) ]ドロップダウンから、Unified Communications Manager ノードを選択します。

ステップ3 [サービス (Service) ]ドロップダウンから、[Cisco CallManager]を選択します。

ステップ4 [詳細設定 (Advanced) ]をクリックします。

ステップ5 [システム (System) ]で、次のパラメータの値を設定します。

- **CDR 有効フラグ**:CDR を生成するには、このパラメータを**True**に設定する必要があります。デフォルトでは、このパラメータは無効になっています。
- **CDR ログの継続時間フラグ**—ゼロ期間フラグを使用して呼び出しを記録する場合は、接続されていないか、1秒未満のコールの通話詳細レコード (CDR) を記録する場合は、このパラメーターを True に設定します。

ステップ6 [クラスタ全体のパラメータ (デバイス - 全般)]で、次のオプションパラメータを設定します。

- **CDR で FAC を表示**—コールに関連付けられた FAC が CDR レコードに表示されるかどうかを決定します。
- **Show Line Group Member DN in finalCalledPartyNumber CDR Field** : CDR の [finalCalledPartyNumber] フィールドに、コールに応答した回線グループメンバーのディレクトリ番号 (DN) を表示するか、ハントパイロット DN を表示するかを決定します。
- **Show Line Group Member Non Masked DN in finalCalledPartyNumber CDR Field** : CDR の [finalCalledPartyNumber] フィールドに、ディレクトリ番号 (DN) を表示するか、コールに  
応答した回線グループメンバーの外線電話番号マスクを適用したディレクトリ番号 (DN) を表示するか、ハントパイロット DN を表示するかを決定します。

ステップ7 システムが着信番号プレフィックス(たとえば、国番号プレフィックスや加入者番号プレフィックス)を CDR レコードに追加する場合は、[クラスタ全体のパラメータ (デバイス - 電話)]で [CDR に着信番号プレフィックスを追加]パラメータを[True]に設定します。デフォルト設定は **False** です。

## 例

次に、呼び出しの着信側と発信側で[CDRに着信番号プレフィックスを追加]パラメータがどのように機能するかの例を示します。

パラメータが**False**に設定されている場合、CDRには、番号の種類が国別番号またはサブスクライバー番号の場合に呼び出しに追加されるプレフィックスが含まれます。

このパラメータが**True**に設定されている場合、次のタイプの番号で、発信者番号に追加されるプレフィックスがCDRに含まれます。

- 国内番号
- 国際番号（接続先がゲートウェイでない場合のみ）
- 加入者番号
- 不明な番号（接続先がゲートウェイでない場合のみ）

	コールのインバウンド側	コールのアウトバウンド側
国内番号プレフィックス	1214	
国際番号プレフィックス		011
加入者番号プレフィックス	214	
不明番号プレフィックス		972

## CAR ユーザの生成

どのユーザもCAR管理者(アプリケーションユーザを含む)として機能できます。ただし、CARツールへのアクセスを提供するアクセスコントロールグループ(標準CAR管理ユーザや標準CCMスーパーユーザなど)にエンドユーザを追加する必要があります。CAR管理者として識別されたエンドユーザは、CARシステムを完全に制御できます。管理者はシステムとレポートに関連するすべてのパラメータを変更できます。CAR管理者として識別されていないエンドユーザは、指定されたCARレポートにのみアクセスできます。



- (注) 定義済みのデフォルトグループではなく、カスタマイズされたアクセスコントロールグループを作成する場合、カスタマイズされたグループには標準管理者ツール管理者の役割が含まれている必要があります。ユーザアクセスの設定方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。



**ヒント** CAR を使用するには、Unified Communications Manager データベースに CAR 管理者が 1 人以上存在するようにしてください。

CAR にログインするには、管理特権を持つ CAR ユーザを CAR に少なくとも 1 名設定しておく必要があります。CAR 管理者、マネージャ、およびユーザを設定するには、次の手順を実行します。

#### 手順

**ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[**ユーザ管理 (User Management)**] > [**エンドユーザ (End User)**] を選択して、エンドユーザを追加します。このタスクの実行方法の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』を参照してください。マネージャを作成する場合は、[**マネージャのユーザ ID (Manager User ID)**] フィールドに必ず値を入力してください。

(注) エンドユーザを作成したら、パスワードのテキストボックスの近くにある [**クレデンシャルの編集 (Edit Credentials)**] ボタンをクリックして、ユーザのパスワードクレデンシャルを編集します。[ユーザは次回ログイン時に変更する必要あり (User Must Change at Next)] チェックボックスをオフにします。この操作を行わないと、**IMS\_ERROR\_CODE\_5 (CAR にログオンする (13 ページ))** を参照) が出力され、CAR にログインできなくなります。その場合、Cisco Unified CM の管理にログインして、パスワードを手動でリセットする必要があります。

**ヒント** CAR の使用を開始する前に、管理特権を持つ CAR ユーザを CAR に少なくとも 1 名設定しておくことを推奨します。CAR 管理者を設定していない場合、または別の CAR 管理者を設定する場合は、次の手順に進みます。

**ステップ 2** [**ユーザ管理 (User Management)**] > [**アクセス制御グループ (Access Control Group)**] を選択します。

**ステップ 3** [**検索**] をクリックして、アクセス コントロール グループのリストを表示します。

**ステップ 4** CAR アクセスを提供するアクセスコントロールグループを選択します。例：[標準の CAR 管理ユーザ (Standard CAR Admin Users)] または [標準 CCM スーパーユーザ (Standard CCM Super Users)]。

**ステップ 5** [グループにエンドユーザを追加 (Add End Users to Group)] をクリックします。

**ステップ 6** グループに追加するユーザのチェックボックス (複数可) をオンにし、[選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。

[グループ内のユーザ (Users in Group)] グループ ボックスにユーザが表示されます。

ヒント CAR 管理特権を無効にするには、[グループ内のユーザ (Users in Group)] グループボックス内にあるユーザのチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。警告メッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。管理特権は、ただちに無効になります。



(注) CAR 管理者として行動するアプリケーションユーザは、すべてのレポート（個人用課金レポートを除く）を設定できます。CAR 管理者として行動するアプリケーションユーザは、エンドユーザ（CCM ユーザ）のウィンドウにアクセスできません。アプリケーションユーザのメール ID は存在しないため、CAR 通知はアプリケーションユーザには送信されません。

## CAR のシステム設定

CDR Analysis and Reporting では、すべてのシステムパラメータがデフォルト値に設定されます。CAR のレコードを生成する前に、いくつかのシステムパラメータをカスタマイズすることを推奨します。すべてのシステムパラメータにはデフォルト値が用意されているため、カスタマイズは推奨されますが必須ではありません。



(注) 次のシステムパラメータは、CAR のサービスパラメータを指しています。これらは、前項で説明した Unified Communications Manager のエンタープライズパラメータおよびサービスパラメータとは別の異なるパラメータであることに注意してください。

CAR では、次のパラメータを設定できます。

- **メールサーバ基準**：CAR は、この情報を使用して電子メールサーバに正常に接続し、アラートおよびレポートを電子メールで送信します。アラートやレポートを電子メールで送信しない場合は、この情報を指定する必要はありません。
- **ダイヤルプラン**：CAR のデフォルトダイヤルプランには、北米番号計画（NANP）が指定されています。レポートのコール分類を正しくするため、ダイヤルプランが適切に設定されていることを確認してください。Cisco Unified CM Administration が提供するデフォルトの NANP を変更した場合、または NANP の外にいる場合は、Unified Communications Manager のダイヤルプランに従いダイヤルプランを設定してください。
- **ゲートウェイ**：ゲートウェイレポートを利用するには、CAR でゲートウェイを設定する必要があります。これは、Cisco IP テレフォニーシステム内のすべての既存のゲートウェイを設置した後、およびシステムにゲートウェイを追加したときに行う必要があります。システムによりゲートウェイが削除された場合、CAR はゲートウェイの最新のリストを取得し、削除されたゲートウェイに対して CAR において指定されているすべての設定が削除されます。CAR は、市外局番情報を使用して、コールがローカルか長距離かを判断します。CAR で使用状況レポートを生成できるようにするには、各ゲートウェイのポート数の情報を指定する必要があります。

- ・システム プリファレンス : Company Name パラメータに関する CAR のシステム プリファレンスを設定できます。

## CAR にログオンする

CAR の Web インターフェイスにログインできるのは、CAR 管理者と通常のエンドユーザだけです。ユーザは、CAR 管理者になるために、標準の CAR 管理者グループのメンバである必要はありません。「Standard Admin Rep Tool Admin」ロールがユーザ ID に関連付けられているユーザは、CAR 管理者として CAR にアクセスできます。ユーザ ID とロールの関連付けは、目的のロールが関連付けられているユーザグループにユーザを追加することにより行います。

「Standard CAR Admin Group」と「Standard CCM Super Users」は、それらに関連付けられた「Standard Admin Rep Tool Admin」ロールを持つ 2 つのグループを構成します。インストール時には、デフォルトのアプリケーションユーザが作成されます。このユーザは「Standard CCM Super Users」グループのメンバであり、CAR 管理者として CAR にログインできますが、アプリケーションユーザとしてのみログインできます。このユーザは、個人用課金レポートにはアクセスできません。

CAR では、カスタムの CAR 管理者グループがサポートされています。「Standard CAR Admin Group」ロールが関連付けられているカスタムグループを使用すると、CAR の Web インターフェイスへのログイン時に CAR 管理者として見なされるユーザを追加できます。

CAR 管理者ではないエンドユーザが CAR にログインできるのは、エンドユーザに「Standard CCM End Users」ロールが関連付けられている場合だけです。このようなユーザ ID とロールの関連付けを行うには、「Standard CCM End Users」グループ、または指定したロールが関連付けられている他のグループに、目的のエンドユーザを追加します。「Standard CCM End Users」グループに関連付けられていないエンドユーザは、CAR の Web インターフェイスにログインできません。

「Standard CCM End Users」または「Standard Admin Rep Tool Admin」ロールがないエンドユーザは、CAR にログインできません。このユーザが CAR へのログインを試みると、403 エラーが生成され、エラーメッセージが表示されていないログインウィンドウに戻ります。また、アプリケーションへのアクセスを試みたユーザのユーザ名が、CAR Web サービスのトレースに記録されます。

CAR ではユーザパスワードの有効期限が切れた場合、[パスワードの変更 (Change Password)] ウィンドウからパスワードを簡単に変更できます。パスワードの期限が切れているユーザが CAR にログインしようとする、IMS\_Error\_Code 5、6、または 8 が表示されます。上記のいずれかのエラーコードを受信した場合、CAR は ccmadmin の ChangePasswordFilter を使用して、ユーザを change-password.jsp にリダイレクトします。



- (注) データベース スロットルでは、同時ユーザ数を 100 に制限します。この制限のために、IMS はログイン速度が約 112 ミリ秒の 100 人のユーザしかサポートしていません。

ユーザパスワードをリセットしている間にエラーが発生した場合は、[パスワードの変更 (Change-Password)] ウィンドウに次のメッセージが表示されます。「ユーザのパスワード

の変更中にシステムエラーが発生しました。システム管理者にお問い合わせください。（System error while changing password for user. Please contact system administrator.）」

CAR 管理者のステータスは「「Standard Admin Rep Tool Admin」」ロールが関連付けられた任意のユーザに拡張されますが、CAR の通知、アラート、および事前生成レポートは、「「Standard CAR Admin Group」」グループのメンバに対してのみ送信されます。すべての CAR 管理者に送信されるわけではありません。

CAR にログインするには、次の手順を実行します。

### 始める前に

次の作業を実行します。

- CAR にログインする前に、最初のサーバで実行されている Cisco CAR Web サービスと Cisco CAR スケジューラ サービスを確認します。サービスをアクティブ化すると、オプション CDR 分析とレポートが[Cisco 統合サービス性]の[ツール]メニューに表示されます。サービスをアクティブにする方法については、[CAR のアクティブ化（5 ページ）](#)を参照してください。
- [CAR ユーザの生成（10 ページ）](#)の説明に従って、CAR 管理者、マネージャ、およびユーザを設定します。

### 手順

**ステップ 1** CAR にログインするには、次のいずれかの作業を実行します。

- a) CAR システム管理者の場合のみ：Cisco Unified Serviceability で、[ツール (Tools)] > [CDR Analysis and Reporting] を選択します。
- b) CAR のユーザまたは管理者の場合：Web ブラウザで、<https://<Server-ip/name>:8443/car/>と入力します。

**ステップ 2** CAR のログイン ウィンドウが表示されたら、[ユーザ名 (User Name)] フィールドにユーザ ID を入力します。

**ステップ 3** [パスワード (Password)] フィールドにパスワードを入力します。[ログイン (Login)] をクリックします。

CAR のウィンドウが表示されます。

ユーザ ID またはパスワードが無効な場合は、次の表に記載されている Identity Management System (IMS) メッセージのいずれかが CAR に表示されます。

表 1: CAR の無効なログイン メッセージ

エラーコード	メッセージ
IMS_ERROR_CODE 1	入力されたユーザ名またはパスワードが無効です。CAR 管理者または通常のエンドユーザとして CAR にログインしようとしていることを確認してください。
IMS_ERROR_CODE 2	このアカウントは、システム管理者によってロックされています。管理者にお問い合わせください。
IMS_ERROR_CODE 3	このアカウントは、一時的にロックされています。システム管理者にお問い合わせください。または、後でログインを試してください。
IMS_ERROR_CODE 4	このアカウントは、アクティビティが不足しているために無効になっています。システム管理者にお問い合わせください。
IMS_ERROR_CODE 5	このアカウントは、パスワードの有効期限が切れているためロックされています。パスワードをリセットしてください。または、システム管理者にお問い合わせください。
IMS_ERROR_CODE 6	このアカウントは、パスワードの有効期限が切れているためロックされています。システム管理者にお問い合わせください。
IMS_ERROR_CODE 7 = ERROR: LDAP_INACTIVE	システムはLDAP 認証の使用に移行していますが、このユーザは古いデータベースに残ったままになっています。システム管理者にお問い合わせください。このエラー コードは、Cisco Unified Communications Manager Business Edition 5000 では使用されません。
IMS_ERROR_CODE 8	このアカウントは、ユーザが手動でログインし、まずクレデンシャルを変更する必要があるためロックされています。[Cisco Unified Communications Manager Administration] ページからパスワードをリセットしてください。または、システム管理者にお問い合わせください。
IMS_ERROR_CODE UNKNOWN	システムエラー。システム管理者にお問い合わせください。

エラーコード	メッセージ
IMS_EXCEPTION (IMS から戻されるすべての例外) = AUTHENTICATION FAILURE	システムエラーにより、ユーザを認証できませんでした。システム管理者にお問い合わせください。

CARにログインすると、次の警告メッセージ（ある場合）がダッシュボードに表示されます。

- CallManager サービスがアクティブになっていて、**CDR Enabled** フラグがイネーブルになっていないノードのリストが表示されます。または、CDR がリストされたノード上で生成されないことを指定します。
  - クラスタ全体のパラメータ **Call Diagnostics Enabled** フラグが無効の場合、フラグが無効であることが表示され、コールに対して QoS 情報は生成されていないことが示されます。
  - CAR Scheduler サービスおよび Cisco Repository Manager サービスが、パブリッシュ上で停止している場合、各サービスのステータスが表示されます。
  - 2M または HWM の制限に違反している場合、違反ステータスが表示されます。
  - CDR ロードのステータスが表示されます。
  - CAR ロダーの前の実行が中断されました。詳細については、CAR スケジューラ ログをご覧ください。
- a) ロードがディセーブルの場合、ロードがディセーブルであることが示されます。
- b) ロードがイネーブルの場合、CDR ロードの最後のロードステータスがチェックされます。CDR ロードの最後のロードステータスが **Failed** の場合、CDR ロードのロードが失敗したことが表示され、CAR スケジューラ ログを確認するように通知されます。CDR ロードが DRS バックアップまたは復元アクティビティによって中断された場合、または Cisco CAR Scheduler サービスが再起動した場合は、「CAR ロダーの最終実行が中断されました。詳細は CAR スケジューラ ログをご確認ください」というメッセージが表示されます。
1. Tbl\_System\_Preferences テーブル列のいずれかに予想される値が設定されていない場合、ダッシュボードに例外とともに [デフォルトに戻す (Restore Defaults)] ボタンが表示されます。[デフォルトに戻す (Restore Defaults)] ボタンをクリックして、CAR ロードとレポートをスムーズに機能させるために必要なデフォルト値を Tbl\_System\_Preferences テーブルに入力できます。  
次の通知メッセージ（ある場合）の一覧がダッシュボードに表示されます。
  2. **CDR Log Calls with Zero Duration** フラグがアクティブになっている場合、ダッシュボードにフラグがアクティブであることが表示され、期間がゼロの CDR が大量に生成される可能性があることが示されます。このため、課金テーブルがすぐにいっぱいになり、2M または HWM 制限をすぐに違反してしまうこととなります。
  3. ロードのスケジュールが連続的か、または断続的かが表示されます。



4. [CDR ロード (CDR Load) ] ページで [CDR ロードのみ (CDR Load Only) ] オプションを選択した場合、ダッシュボードに CMR が CAR データベースにロードされていないことが示されます。
5. メールパラメータが設定されていない場合、ダッシュボードにメールパラメータを設定していないことが表示され、メールパラメータを設定するためのパスが表示されます。
6. CAR 管理者のメール ID が設定されていない場合、ダッシュボードに CAR 管理者のメール ID を設定していないことが表示されます。
7. 課金テーブルの次のステータスが表示されます。
  - Tbl\_Billing\_Data 内のレコード数。
  - Tbl\_Billing\_Error 内のレコード数。
  - Tbl\_Billing\_Data テーブルと Tbl\_Billing\_Error テーブルの最大日付と最小日付。

---

## CAR からログアウトする

この項では、CAR からログアウトする方法について説明します。

### 手順

- ステップ1 CAR のウィンドウで、[ログアウト (Logout) ] を選択します。
- ステップ2 プロンプトメッセージ「「セキュリティ上の理由から、ログアウト時にブラウザ ウィンドウを閉じることをお勧めします。ブラウザのウィンドウを閉じますか?」 (For security reasons, it is advisable to close the browser window on Logout. Do you want to close the browser window?)」が表示されます。CAR のウィンドウ (ブラウザ) を閉じるには、[OK] をクリックします。[キャンセル (Cancel) ] をクリックすると、CAR のログイン ウィンドウが表示されます。

---

## CAR システム パラメータ

デフォルト値を使用しない場合、レポートを生成する前に、いくつかのシステムパラメータをカスタマイズする必要があります。この項では、CAR に影響を及ぼすシステムパラメータについて説明します。すべてのシステムパラメータにはデフォルト値が用意されているため、カスタマイズは推奨されますが必須ではありません。次のパラメータをカスタマイズできます。

- メールサーバ
- [ダイヤルプラン (Dial Plan) ]

- Gateway
- トランク
- 会社名 (Company Name)

## メールサーバパラメータの設定

電子メールアラートとレポートを電子メールで送信するには、メールサーバの設定情報を指定する必要があります。CARは、設定情報を使用して電子メールサーバに正常に接続します。

この項では、電子メールサーバ情報を指定する方法について説明します。

### 手順

---

**ステップ 1** [システム (System) ] > [システムパラメータ (System Parameters) ] > [メールパラメータ (Mail Parameters) ] を選択します。

[メールパラメータ (Mail Parameters) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [メールID (Mail ID) ] フィールドには、電子メールが送信される時に[開始 (From) ] フィールドで使用される電子メールIDだけを入力します (たとえば、smith1@abc.com の場合、[メールID (Mail ID) ] フィールドには **smith1** と入力します) 。

(注) CAR では、SMTP 認証はサポートされていません。SMTP メールサーバでの認証は無効にする必要があります。

**ステップ 3** [メールサーバ名 (Mail Server Name) ] フィールドには、電子メールシステムが実行されているサーバのドメイン名を入力します (つまり、前述の例では、**abc.com** と入力します) 。

**ステップ 4** [更新 (Update) ] をクリックします。

---

## ダイヤルプランの設定

CAR のデフォルトダイヤルプランには、北米番号計画 (NANP) が指定されています。ダイヤルプランを適切に設定し、コールの分類がレポートに正しく表示されるようにしてください。



---

(注) Cisco Unified CM の管理で提供されているデフォルトの NANP を変更した場合、または NANP の外にいる場合は、Unified Communications Manager のダイヤルプランに従い CAR のダイヤルプランを設定してください。ダイヤルプランを設定するには、少なくとも1つの条件が存在する必要があります。

ダイヤルプランの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Online Help』および『Cisco Unified Communications Manager System Guide』を参照してください。

---

ダイヤルプランを設定するには、発信コール分類のパラメータを定義します。コールの分類には、[国際 (International)]、[ローカル (Local)]、[長距離 (Long Distance)]、[オン ネット (On Net)]などがあります。たとえば、ユーザのエリア内の市内電話番号の長さが6桁の場合、ダイヤルプランには、次のような行を指定します。

条件	桁数	パターン	コールタイプ
=	6	!	ローカル

この項では、CAR ダイヤルプラン設定を更新する方法について説明します。

### 手順

**ステップ1** [システム (System)] > [システムパラメータ (System Parameters)] > [ダイヤルプランの設定 (Dial Plan Configuration)] を選択します。

[ダイヤルプランの設定 (Dial Plan Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ2** [フリーダイヤル番号 (Toll Free Numbers)] フィールドに、料金なしで発信できるダイヤルプランの番号を入力します。

**ステップ3** 次のフィールドを使用して、テーブル内の値を更新します。

- a) [条件 (Condition)] : ルールの条件を選択します。[桁数 (No of Digits)] フィールドに指定されている値との比較で、> はより大きい、< はより小さい、= は等しいことを表します。
- b) [桁数 (No of Digits)] : このルールを適用する必要がある電話番号の桁数を選択します。桁数がルールに影響を及ぼさない場合は、[NA] を指定します。
- c) [パターン (Pattern)] : コールの分類に使用されるパターンを入力します。
  - G : ルールの指定に従い分類されることを示します (G は指定されているゲートウェイの市外局番のワイルドカードです)。
  - K : ルールの指定に従い分類されることを示します (K は指定されているトランクの市外局番のワイルドカードです)。
  - T : CAR に設定されているフリーダイヤル番号を取得します。
  - ! : 複数桁の数値 (1234 や 5551234 のように1桁より長い数値) を示します。
  - X : 1桁の数値 (0、1、または9など) を示します。
- d) [コールタイプ (Call Type)] : 条件を満たしている場合にコールタイプを選択します。

**ステップ4** 行を追加する場合は、下に行を追加する行のチェックボックスをオンにし、[行の追加 (Add Rows)] リンクをクリックします。選択した行の上に行が追加されます。行を削除する場合は、削除する行のチェックボックスをオンにし、[行の削除 (Delete Rows)] リンクをクリックします。

(注) CARにより、CDRに保存されている着信番号に基づいて、コールが分類されます。(番号変換によって)着信桁数がCDRに書き込まれている桁数と異なる場合、CDRでの桁数の表示方法に基づいて、CARでダイヤルプランを設定します。

ステップ5 [更新 (Update) ]をクリックします。

## デフォルト値の復元

CARでデフォルトのダイヤルプランを変更した場合、北米番号計画 (NANP) に基づくデフォルト値を復元できます。

次の表に、NANP のデフォルト値を示します。

表 2: CAR ダイヤル プランのデフォルト値

行	条件	桁数	パターン	コールタイプ
1	=	5	!	オンネット (OnNet)
2	=	7	!	ローカル
3	=	10	T!	その他 (Others)
4	=	10	G!	ローカル
5	=	10	K!	ローカル (Local)
6	=	10	!	長距離
7	=	11	T!	その他 (Others)
8	=	11	XG!	ローカル
9	=	11	XK!	ローカル (Local)
10	=	11	!	長距離
11	>	3	011!	国際

表のデフォルト値について次で説明します。

- 行 1 : ダイヤルされた桁数が 5 に等しく、パターンが ! (1 桁より長い。ここでは 5 桁) の場合、このコールは「オンネット (On Net) 」として分類されます。
- 行 2 : ダイヤルされた桁数が 7 に等しく、パターンが ! (1 桁より長い。ここでは 7 桁) の場合、このコールは「ローカル (Local) 」として分類されます。
- 行 3 : ダイヤルされた桁数が 10 に等しく、パターンが T! (1 桁より長い。この場合は無料通話番号コードで始まる 10 桁の数字) の場合、コールは「その他 (Others) 」として分類されます。

- 行 4：ダイヤルされた桁数が 10 に等しく、パターンが G! (1 桁より長い。この場合はゲートウェイコードで始まる 10 桁の数字) の場合、コールは「ローカル (Local)」として分類されます。
- 行 5：ダイヤルされた桁数が 10 に等しく、パターンが K! (1 桁より長い。この場合はトランクコードで始まる 10 桁の数字) の場合、コールは「ローカル (Local)」として分類されます。
- 行 6：ダイヤルされた桁数が 10 に等しく、パターンが ! (1 桁より長い。ここでは 10 桁の数字) の場合、コールは「長距離 (Long Distance)」として分類されます。
- 行 7：ダイヤルされた桁数が 11 に等しく、パターンが T! (1 桁より長い。この場合は無料通話番号コードで始まる 11 桁の数字) の場合、コールは「その他 (Others)」として分類されます。
- 行 8：ダイヤルされた桁数が 11 に等しく、パターンが XG! (1 桁より長い。この場合は 1 桁の数字で始まり、その後にゲートウェイコードが続く 11 桁の数字) の場合、コールは「ローカル (Local)」として分類されます。
- 行 9：ダイヤルされた桁数が 11 に等しく、パターンが XK! (1 桁より長い。この場合は 1 桁の数字で始まり、その後にトランクコードが続く 11 桁の数字) の場合、コールは「ローカル (Local)」として分類されます。
- 行 10：ダイヤルされた桁数が 11 に等しく、パターンが ! (1 桁より長い。ここでは 11 桁の数字) の場合、コールは「長距離 (Long Distance)」として分類されます。
- 行 11：ダイヤルされる桁数が 3 よりも大きく、011 で始まる場合、コールは [国際 (International)] に分類されます。

いずれの条件も満たさない場合、コールは [その他 (Others)] に分類されます。この項では、CAR で NANP ダイヤルプランの値を復元する方法について説明します。



(注) 「!!」、「GG」、「KK」、「TT」、「GK」、「KG」などの文字の組み合わせは、ダイヤルプランの設定では使用できません。

## 手順

**ステップ 1** [システム (System)] > [システムパラメータ (System Parameters)] > [ダイヤルプランの設定 (Dial Plan Configuration)] を選択します。

[ダイヤルプランの設定 (Dial Plan Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [デフォルトの復元 (Restore Defaults)] をクリックします。

復元は、午前0時に有効になります。変更をただちに有効にする場合は、Cisco CAR Scheduler サービスを再起動します。

## ゲートウェイの設定



**ヒント** 既存の Unified Communications Manager システム ゲートウェイ用のゲートウェイを CAR で設定します。Cisco Unified CM の管理にゲートウェイを追加したら、CAR で新しいゲートウェイを設定します。ゲートウェイが Unified Communications Manager システムから削除された場合、CAR からゲートウェイ（および指定したすべてのコンフィギュレーション設定）が自動的に削除されます。

CAR は、市外局番情報を使用して、コールがローカルか長距離かを判断します。CAR で使用状況レポートを生成できるようにするには、各ゲートウェイのポート数の情報を指定する必要があります。



**(注)** 「G」は、ダイヤルプランの設定で使用されるゲートウェイ市外局番のワイルドカードとして機能します。「」

この項では、CAR でゲートウェイを設定する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** [システム (System)] > [システムパラメータ (System Parameters)] > [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] を選択します。

[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**(注)** Cisco Unified CM の管理でゲートウェイを設定していない場合、システムにゲートウェイが設定されていないことを示すメッセージが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかの作業を実行します。

a) すべてのゲートウェイで市外局番を更新する場合は、[市外局番 (Area Code)] フィールドに市外局番を入力し、[市外局番の設定 (Set Area Code)] をクリックします。

[更新 (Update)] をクリックして変更を保存する必要があることを示すメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

b) 特定のゲートウェイの市外局番を更新する場合は、設定する各ゲートウェイの [市外局番 (Area Code)] フィールドに、そのゲートウェイの市外局番を入力します。

**ステップ 3** 最大ポート数 (Max No. of Ports) フィールドに、設定する各ゲートウェイのポート数を入力します。最大ポート数の範囲は、1 ~ 999 です。

(注) CARは、ゲートウェイがCisco Unified CMの管理に追加されたときにそのゲートウェイに指定された値を使用します。したがって、Cisco Unified CMの管理でゲートウェイが追加されたときに指定された詳細によっては、一部のゲートウェイでは市外局番がすでに設定されていたり、ポートの最大数が0になっていたりします。CARでは、最大ポート数の値に0は使用できません。値が0のすべてのゲートウェイについて最大ポート数を変更するように要求される場合があります。

**ステップ4** [更新 (Update)] をクリックします。

設定済みの任意またはすべてのゲートウェイで、CARのレポートを実行できます。

## トランクの設定



**ヒント** 既存の Unified Communications Manager システム トランク用のトランクを CAR で設定します。Cisco Unified CM の管理にトランクを追加したら、CAR で新しいトランクを設定します。トランクが Unified Communications Manager システムから削除された場合、CAR からトランク（および指定したすべてのコンフィギュレーション設定）が自動的に削除されます。

CAR は、市外局番情報を使用して、コールがローカルか長距離かを判断します。CAR で使用状況レポートを作成できるように、各トランクにポートの数の情報を指定する必要があります。

この項では、CAR でのトランクの設定方法について説明します。

### 手順

**ステップ1** [システム (System)] > [システムパラメータ (System Parameters)] > [トランクの設定 (Trunk Configuration)] を選択します。

[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウが表示されます。

(注) Cisco Unified CM の管理でトランクを設定していない場合、システムにトランクが設定されていないことを示すメッセージが表示されます。

**ステップ2** 次のいずれかの作業を実行します。

- a) すべてのトランクで市外局番を更新する場合は、[市外局番 (Area Code)] フィールドに市外局番を入力し、[市外局番の設定 (Set Area Code)] をクリックします。

[更新 (Update)] をクリックして変更を保存する必要があることを示すメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

- b) 特定のトランクの市外局番を更新する場合は、設定する各トランクの [市外局番 (Area Code)] フィールドに、そのトランクの市外局番を入力します。

**ステップ 3** [最大ポート数 (Max No. of Ports) ]フィールドに、設定する各トランクのポートの数を入力します。最大ポート数の範囲は、1～999です。

(注) CARは、トランクがCisco Unified CMの管理に追加されたときにそのトランクに指定された値を使用します。したがって、Cisco Unified CMの管理でトランクが追加されたときに指定された詳細によっては、最大ポート数が0になるトランクもあります。CARでは、最大ポート数の値に0は使用できません。値が0のすべてのトランクについて最大ポート数を変更するように要求されます。

**ステップ 4** [更新 (Update) ]をクリックします。

設定したトランクのいずれかまたはすべてについて、CARでレポートを実行できます。

## システム設定の設定

CARには、デフォルトのシステム設定があります。ただし、システムパラメータの値を指定して、システムをカスタマイズすることができます。

この項では、システム設定の値を指定する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** [システム (System) ]>[システムパラメータ (System Parameters) ]>[システム設定 (System Preferences) ]を選択します。

[システム設定 (System Preferences) ]ウィンドウが表示されます。使用可能なシステムパラメータのリストが、[パラメータ名 (Parameter Name) ]リストに表示されます。

**ステップ 2** [パラメータ値 (Parameter Value) ]フィールドに、次の表で説明されているパラメータの適切な値を入力します。

表 3: システム設定パラメータ

パラメータ	説明
COMPANY_NAME	レポートのヘッダー情報として使用される会社名を入力します。会社名の長さは、64文字を超えることはできません。

**ステップ 3** [更新 (Update) ]をクリックします。



## CDR ロードスケジュールの設定

CDR データは、デフォルトで、1 日に 24 時間、1 週間に 7 日間、継続的にロードされ、CDR レコードだけがロードされます。



- (注) デフォルトのバッチサイズは、600 の CDR レコードまたは CMR レコードに等しいサイズです。各 CDR バッチ間のデフォルトのスリープ時間は、各 CMR バッチで 2500 および 3000 ms に等しい時間です。ただし、tbl\_system\_preferences テーブル「LOADER\_BATCH」カラムからのバッチサイズを、50 ~ 2000 の任意の値に設定できます。「」

この項では、ロードスケジュールのカスタマイズ方法、カスタマイズされている場合にデフォルトのロードスケジュールに戻す方法、および、CDR のロードを無効にする方法について説明します。

システムをインストールまたはアップグレードをインストールするときには、CDR のロードを無効にします。CDR のロードが無効に設定されているときには、CDR データはアップデートされません。可能な限り早く、CDR のロードを再度有効にしてください。CAR ツールは、Unified Communications Manager の CDR 生成には影響を与えません。



ヒント CAR データを手作業で削除し、CDR でデータベースをリロードする場合。

### 手順

**ステップ 1** [システム (System)] > [スケジューラ (Scheduler)] > [CDR ロード (CDR Load)] を選択します。

[CDR ロード (CDR Load)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかのオプションを選択します。

- a) [ローダの無効化 (Disable Loader)] : CDR データのロードを無効にするには、[ローダの無効化 (Disable Loader)] チェックボックスをオンにして、[更新 (Update)] をクリックします。

CDR のロードを有効にするまで、CDR データは CAR にはロードされません。変更内容は、午前 0 時に有効になります。CAR Scheduler サービスを一旦停止し再起動すると、変更内容をすぐに有効にできます。

CDR データのロードを有効にするには、[ローダの無効化 (Disable Loader)] チェックボックスをオフにし、次のステップに進み、ロードパラメータを設定します。

- b) [連続ロード 24/7 (Continuous Loading 24/7)] : CDR Loader が、1 日に 24 時間、1 週間に 7 日間、継続的に実行され、CDR が CAR データベースにロードされるようにする場合は、[連続ロード 24/7 (Continuous Loading 24/7)] チェックボックスをオンにし、[更新 (Update)] をクリックします。この選択は、CDR Load Scheduler のデフォルト設定です。

(注) デフォルト設定では、CDR レコードだけがロードされます。CMR レコードはロードされません。CDR レコードとともに CMR レコードが継続的にロードされるようにする場合は、[CDR のみロード (Load CDR only)] チェックボックスを手作業でオフにする必要があります。

CAR Scheduler サービスが停止し、CAR ロードが、構成されているとおりに、ただちに (1 ~ 2 分以内に) 実行されます。CAR Scheduler サービスが再起動します。処理する新しいファイルがない場合、CDR Loader がスリープし、ロードする新しいファイルは定期的にチェックされます。

(注) このオプションが選択されている場合、このオプションが優先され、[時間 (Time)]、[ロード間隔 (Loading Interval)]、[接続時間 (Duration)]、および [無制約ロード (Uninhibited Loading)] などの、画面にある他の CDR ロードパラメータおよび CMR ロードパラメータは無視されます。

- c) [CDRのみロード (Load CDR Only)] : CAR データベースに CDR レコードだけをロードするには、[CDRのみロード (Load CDR only)] チェックボックスをオンにし、[更新 (Update)] をクリックします。次のステップに進み、ロードパラメータを設定します。このオプションでは、CMR レコードは CAR データベースにはロードされません。この選択は、CDR Load Scheduler のデフォルト設定です。

**ステップ 3** [CDR および CMR のロード (Load CDR & CMR)] 領域で、次の表の説明に従って、フィールドに入力します。

表 4: CDR および CMR のロードの値

フィールド	値
時刻 (Time)	CAR により、CDR フラットファイルから CDR データをロードする時刻と分を選択します。
ロード間隔 (Loading Interval)	レコードをロードする間隔を選択します。間隔は、15 分ごとから 24 時間ごとまでの範囲で設定できます。
時間 (Duration)	CDR データをロード可能な時間の長さを分単位で入力します。CDR フラットファイルのサイズにより、CDR のロード時には、CAR パフォーマンスが低下することがあります。ロード可能な時間を制限できますが、これを行うと、CDR データの一部分だけが設定した時間にロードされる可能性があります。設定する接続時間の制限は、間隔と調整してください。たとえば、15 分ごとに CDR データをロードする場合、ロードの接続時間は 15 分間を超えることはできません。

無制約なロードの場合、ユーザは、CDRデータが継続的にロードされる時間を設定できます。CDRデータは、指定されている接続時間の間には自動的にロードされません。[CDRおよびCMRのロード (Load CDR and CMR)] 領域設定で指定された接続時間の中にロードが開始する場合にのみ、CDRデータのロードは、指定された接続時間、無制限にロードされます。CDRデータのロードが無制限なロード間隔に開始される場合、ロードは、無制限なロード間隔の終了時刻に加え、[CDRおよびCMRのロード (Load CDR and CMR)] 領域で設定されている接続時間フィールドにある時間の長さまで、続行されるか、または、処理する新しいファイルがなくなるまで続行されます。

無制限なロードは、スケジュール済みロードに設定された値よりも優先されます。CDRデータを無制限にロードしたくない場合は、[開始 (From)] と [終了 (To)] の値を [00:00] に設定します。

**ステップ 4** [CDRの無制約ロード (Uninhibited Loading of CDR)] 領域で、次の表の説明に従って、フィールドに入力します。

表 5: [CDRの無制約ロード (Uninhibited Loading of CDR)] の値

フィールド	値
送信元 (From)	CDRデータの継続的なロードを開始する時刻と分を選択します。
送信先 (To)	CDRデータの継続的なロードを終了する時刻と分を選択します。

**ステップ 5** [更新 (Update)] をクリックします。

CARにより、指定した時刻、間隔、接続時間に基づいて、CDRデータがロードされます。変更内容は、午前0時に有効になります。CAR Scheduler サービスを一旦停止し再起動すると、変更内容をすぐに有効にできます。

(注) [連続ロード 24/7 (Continuous Loading 24/7)] が選択されている場合、[更新 (Update)] がクリックされると、CAR Scheduler サービスが自動的に再起動されます。CARにより、CDRデータがただちに (1 ~ 2分以内に) ロードされます。

## 日報のスケジュール

Daily Report Schedulerにより、CARの日報の時刻と接続時間がスケジュールされます。

### 始める前に

[自動作成/警告 (Automatic Generation/Alert)] オプションを使用して、生成されるレポートを指定します。

この項では、自動日報の時刻と接続時間をスケジュールする方法について説明します。

## 手順

---

**ステップ1** [システム (System)] > [スケジューラ (Scheduler)] > [毎日 (Daily)] を選択します。

[日次スケジューラ (Daily Scheduler)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ2** [時間 (Time)] ドロップダウンリストボックスから、日報を生成する時刻と分を選択します。

時刻は24時間制で表します。0は午前0時、1～11は午前、12～23は午後（午後1～11時）になります。

**ステップ3** [期間 (Life)] ドロップダウンリストボックスから、0から12日の範囲でレポートの残存所要期間を選択します。

ヒント レポートの期間を00に設定すると、レポートは生成されません。

**ステップ4** [更新 (Update)] をクリックします。

[自動作成/警告オプション (Automatic Generation/Alert Option)] のレポート生成間隔が [日次 (Daily)] のレポートでは、毎日指定した時間での自動生成が有効で、指定した日数の後に削除されます。

変更内容は、午前0時に有効になります。CAR Scheduler サービスを一旦停止し再起動すると、変更内容をすぐに有効にできます。

ヒント デフォルトに戻すには、[デフォルトに戻す (Restore Defaults)] をクリックします。デフォルトでは、日報は毎日午前1時に実行され、2日後に消去されます。

---

## 週報のスケジュール

Weekly Report Scheduler により、自動週報の曜日、時刻、接続時間がスケジュールされます。

### 始める前に

生成されるレポートを指定するには、[自動作成/警告オプション (Automatic Generation/Alert Option)] を使用します。

この項では、自動週報の曜日、時刻、接続時間をスケジュールする方法について説明します。

## 手順

---

**ステップ1** [システム (System)] > [スケジューラ (Scheduler)] > [毎週 (Weekly)] を選択します。

[週次スケジューラ (Weekly Scheduler)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ2** [曜日 (Day of Week)] ドロップダウンリストボックスから、レポートを生成する曜日を選択します。

**ステップ3** [時間 (Time) ] ドロップダウン リスト ボックスから、レポートを生成する時刻と分を選択します。

時刻は 24 時間制で表します。0 は午前 0 時、1 ~ 11 は午前、12 ~ 23 は午後 (午後 1 ~ 11 時) になります。

**ステップ4** [期間 (Life) ] ドロップダウン リスト ボックスから、00 から 12 週の範囲でレポートの残存所要期間を選択します。選択したオプションにより、レポートが削除されるまでにレポートがディスクに残っている週数が示されます。

ヒント レポートの期間を 00 に設定すると、レポートは生成されません。

**ステップ5** [更新 (Update) ] をクリックします。

[自動作成/警告オプション (Automatic Generation/Alert Option) ] のレポート生成間隔が [週次 (Weekly) ] のレポートでは、毎週指定した時間での自動生成が有効で、指定した週数の後に削除されます。

変更内容は、午前 0 時に有効になります。変更をただちに有効にする場合は、[コントロールセンターの機能サービス (Control Center - Feature Services) ] ウィンドウで CAR Scheduler サービスを停止し、再起動します。

ヒント デフォルトに戻すには、[デフォルトに戻す (Restore Defaults) ] をクリックします。デフォルトでは、週報は毎日曜日午前 4 時に実行され、4 週間後に消去されます。

---

## 月次報告のスケジュール

Monthly Report Scheduler により、CAR の月次報告の日付、時刻、接続時間がスケジュールされます。

### 始める前に

生成されるレポートを指定するには、[自動作成/警告オプション (Automatic Generation/Alert Option) ] を使用します。

この項では、自動月次報告の日付、時刻、接続時間をスケジュールする方法について説明します。

### 手順

---

**ステップ1** [システム (System) ] > [スケジューラ (Scheduler) ] > [月次 (Monthly) ] を選択します。

[月次スケジューラ (Monthly Scheduler) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ2** [月次請求書の作成 (Monthly Bill Generation) ] 行の [日付 (Day of Month) ] ドロップダウン リスト ボックスから、レポートを生成する月の日付を選択します。

値を指定された月に存在しない日（29、30、または31など）に設定した場合、レポートは、その月の最終日に生成されます。

**ステップ3** [月次請求書の作成（Monthly Bill Generation）] 行の [時間（Time）] ドロップダウンリストボックスから、レポートを生成する時刻と分を選択します。

時刻は24時間制で表します。0は午前0時、1～11は午前、12～23は午後（午後1～11時）になります。

**ステップ4** [月次請求書の作成（Monthly Bill Generation）] 行の [期間（Life）] ドロップダウンリストボックスから、00から12月の範囲でレポートの残存所要期間を選択します。選択したオプションにより、レポートが削除されるまでにレポートがディスクに残っている月数が示されます。

ヒント レポートの期間を00に設定すると、レポートは生成されません。

**ステップ5** [その他の月次レポート（Other Monthly Reports）] 行の [日付（Day of Month）] ドロップダウンリストボックスから、レポートを生成する月の日付を選択します。

この値を指定された月に存在しない日（29、30、または31など）に設定した場合、レポートは、その月の最終日に生成されます。

**ステップ6** [その他の月次レポート（Other Monthly Reports）] 行の [時間（Time）] ドロップダウンリストボックスから、レポートを生成する時刻と分を選択します。

時刻は24時間制で表します。0は午前0時、1～11は午前、12～23は午後（午後1～11時）になります。

**ステップ7** [その他の月次レポート（Other Monthly Reports）] 行の [期間（Life）] ドロップダウンリストボックスから、00から12月の範囲でレポートの残存期間を選択します。選択したオプションにより、レポートが削除されるまでにレポートがディスクに残っている月数が示されます。

ヒント レポートの期間を00に設定すると、レポートは生成されません。

**ステップ8** [更新（Update）] をクリックします。

[自動作成/警告オプション（Automatic Generation/Alert Option）] のレポート生成間隔が [月次（Monthly）] のレポートでは、毎月指定した時間での自動生成が有効で、指定した月数の後に削除されます。

変更内容は、午前0時に有効になります。変更をただちに有効にする場合は、[コントロールセンタの機能サービス（Control Center - Feature Services）] ウィンドウで CAR Scheduler サービスを停止し、再起動します。

ヒント デフォルトに戻すには、[デフォルトに戻す（Restore Defaults）] をクリックします。デフォルトでは、月次課金情報レポートは毎月1日午前3時に実行され、2ヵ月後に消去されます。その他の月次レポートは毎月1日午前2時に実行され、2ヵ月後に消去されます。

## アラーム

Unified Communications Manager のこのリリースでは、CAR Scheduler の CAR アラーム カタログ (CARAlarmCatalog.xml) が導入されました。

次の表に、このカタログのアラーム/アラートを表示します。

これらのアラームを設定するには、[Cisco Unifiedサービスアビリティ (Cisco Unified Serviceability)] > [アラーム (Alarm)] > [設定 (Configuration)] > [CDRサービス (CDR Services)] に進みます。

表 6: CAR アラーム カタログ

[名前 (Name)]	重大度	説明
CARSchedulerJobFailed	ERROR_ALARM	CAR でスケジュールされている重大なジョブが失敗しました。重大な CDR Scheduler ジョブおよびタスクが失敗したときにアラートが送信されます (たとえば、DailyCdrLoad、PopulateSchedules など)。
CARSchedulerJobError	ERROR_ALARM	CAR でスケジュールされているジョブが失敗しました。その他のすべての重大ではない CAR Scheduler ジョブおよびタスクにアラートが送信されます (たとえば、日報、週報、月次報告、QoSNotification、ChargeLimitNotification など)。
BadCDRFileFound	ERROR_ALARM	CAR データベースへの CDR のロード中に、誤りのある CDR フラットファイルまたは CMR フラットファイルが見つかりました。CDR Loader では、誤りがあるか、または破損している CDR フラットファイルや CMR フラットファイルを検出でき、指定されたエラーが記録されます。失敗原因の情報 (誤りのあるレコードに指定された原因) および失敗の要約 (ファイルにある合計レコードに対する、誤りのあるレコードのトラック数) が示されます。

[名前 (Name) ]	重大度	説明
CARIDSEngineDebug	DEBUG_ALARM	CARIDS データベース エンジンからのデバッグ イベントが示されます。このアラームは、CARIDS データベース エンジンからの低レベルデバッグ情報を提供します。システム管理者は、このアラームを無視できます。
CARIDSEngineInformation	INFORMATION_ALARM	エラーは発生しませんでした、CARIDS データベース エンジンで一部の規定イベントが完了しませんでした。
CARIDSEngineCritical	CRITICAL_ALARM	このアラームによってデータが損なわれたりシステムが使用できなくなることはありませんが、CAR DB 管理者による監視が必要です。
CARIDSEngineFailure	ERROR_ALARM	緊急状態とエラー状態が組み合わされたアラームです。このアラームは、予想されていない事態が発生して、データまたはデータへのアクセスに支障が出たり、CARIDS に失敗する可能性があることを示します。

これらのアラームおよび推奨処置の詳細については、[Cisco Unified サービスアビリティ (Cisco Unified Serviceability) ]>[アラーム (Alarm) ]>[定義 (Definitions) ]>[CARAlarmCatalog] でアラーム定義を参照してください。

## CAR システム データベース

ユーザは、CAR データベースのサイズが最大レコード数の割合 (%) を超えると通知されるよう、CAR を設定できます。メッセージおよびレコードの最大数を設定し、アラートの割合 (%) を指定することができます。

また、[データベースの自動消去の設定 (Configure Automatic Database Purge) ] ウィンドウで設定した下限値と上限値の間に CAR データベース サイズを維持するよう、システムを設定できます。データベースサイズが下限値に達すると、CAR からユーザにアラートが送信されます。データベースサイズが上限値に達すると、システムにより、削除経過時間に基づいてレコードが削除され、電子メールが送信されます。

CAR システム データベースを設定するには、[Cisco Unified サービスアビリティ (Cisco Unified Serviceability) ]>[ツール (Tools) ]>[CDR Analysis and Reporting] >[システムまたはレポートの設定 (System or Report Config) ] に進みます。



## CAR データベースの消去

この項では、選択したレコードを CAR データベースから手作業で削除する方法、および、すべての CAR データを削除し、新しい CDR データをリロードする方法について説明します。ダイヤルプランの更新、ユーザとデバイスとの関連付けの変更、コールレートの変更などの後に、データベースをリロードしてコールを分類し直す必要が生じることがあります。

手作業でデータを消去する前に、CDR Loader を無効にします。

1. [システム (System)] > [スケジューラ (Scheduler)] > [CDR ロード (CDR Load)] を選択します。

2. 以下のいずれかを選択します。

- [ローダの無効化 (Disable Loader)] : [ローダの無効化 (Disable Loader)] チェックボックスをオンにして、[更新 (Update)] をクリックします。

CDR ローディングを有効にして、データを CAR にロードします。変更内容は、午前 0 時に有効になります。CAR Scheduler サービスを一旦停止し再起動すると、変更内容をすぐに有効にできます。

- [ローダの有効化 (Enable Loader)] : [ローダの無効化 (Disable Loader)] チェックボックスをオフにします。

手作業での消去処理中に CAR Web Service が停止されると、CDR の手作業での消去は停止されます。CAR Web Service が再起動するまで、手作業での消去を再度開始することはできません。その場合、手動消去プロセスを再度開始する必要があります。

CAR Web Service を意図的に停止するには、次の 2 つの方法があります。

- CAR Web Service を [サービスアビリティサービスの開始 (Serviceability Service Activation)] ウィンドウで無効にします ([Cisco Unified サービスアビリティ (Cisco Unified Serviceability)] > [サービスの開始 (Service Activation)] )。
- サービスアビリティ コントロールセンターの [機能サービス (Feature Services)] ウィンドウで CAR Web Service を停止します ([Cisco Unified サービスアビリティ (Cisco Unified Serviceability)] > [ツール (Tools)] > [コントロールセンタの機能サービス (Control Center - Feature Services)] )。

CAR Web Service または CAR Scheduler のいずれかが再起動されるまで、CDR Loader を再度開始することはできません。

CAR データベースの手作業での消去が処理中か、または、CDR レコードがリロード中には、CAR 管理者は CAR レポートを生成できなくなります。これらの処理中に次のレポートを実行しようとした場合、次のエラーメッセージが表示されます。

```
10023: 手動消去/リロードが進行中です。(10023: Manual Purge/Reload is in process.)
手動消去/リロードが終了したら、レポートを実行してください。(Please run the reports once
the Manual Purge/Reload is over.)
```

手作業での消去または CDR のリロードのいずれかが発生すると、[消去 (Purge) ] ボタンおよび [すべての呼詳細レコードのリロード (Reload All Call Detail Records) ] ボタンが無効にされ、[手動消去 (Manual Purge) ] ウィンドウに次のアラートメッセージが表示されます。

手動消去/リロードはまだ実行中です。(Manual Purge/Reload is still running.) ユーザは手動消去/リロードの別のインスタンスを実行することはできません。(User will not be allowed to run another instance of Manual Purge/Reload.) したがって、[消去 (Purge) ] と [すべての呼詳細レコードのリロード (Reload All Call Detail Records) ] の両方のボタンは無効になっています。(So, both Purge and Reload All Call Detail Records buttons are disabled.)

## 手順

**ステップ 1** [システム (System) ] > [データベース (Database) ] > [手動消去 (Manual Purge) ] を選択します。

[データベースの手動消去 (Manual Database Purge) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかのアクションを選択します。

a) 既存の CAR データを削除し、CAR データベースをリロードする場合は、[すべての呼詳細レコードのリロード (Reload All Call Detail Records) ] をクリックします。

システムから、レコードの削除はシステムパフォーマンスに影響を及ぼす可能性があることを示すメッセージが表示されます。リロードプロセスを続行する場合は、[OK] をクリックします。

システムでは、CDR の CAR データベースへのロードが 5 分以内に開始され、最大 6 時間まで割り込みなしで続行されます。リロードの進捗をモニタするには、CDR ロードイベント ログを生成します。

システムによって新しいレコードがロードされた後で、設定されたスケジュールに従ってレコードがロードされます。CDR データは、デフォルトで、1 日に 24 時間、1 週間に 7 日間、ロードされます。

b) 選択された CAR レコードを手動で消去するには、次のステップに進みます。

**ステップ 3** [テーブルの選択 (Select Table) ] フィールドで、消去するデータベースのテーブルを選択します。

手作業での消去が許可されているテーブル、テーブルの合計レコード数、およびテーブルにある最も新しいレコードと最も古いレコードを参照する場合は、[テーブル情報 (Table Information) ] をクリックします。

[テーブル情報 (Table Information) ] ウィンドウが表示されます。次の情報とともにテーブルが表示されます。

データベース名	テーブル名	合計レコード数	最も新しいレコード	最も古いレコード
CAR	Tbl_billing_data	0	0	0

データベース名	テーブル名	合計レコード数	最も新しいレコード	最も古いレコード
CAR	Tbl_billing_error	0	0	0
CAR	Tbl_purge_history	0	0	0

[データベースの手動消去 (Manual Database Purge)] ウィンドウに戻る場合は、[閉じる (Close)] をクリックします。

**ステップ 4** [レコードの削除 (Delete records)] フィールドで、次のオプション ボタンの 1 つをクリックすることによって、消去されるレコードを決める日付を選択します。

- a) [次より古いレコード: (Older than)] : ある日付よりも前のすべてのレコードを削除する場合に、該当する日付を 1 つ選択します。
- b) [範囲 (Between)] : すべてのレコードが削除される日付範囲を選択します。

**ステップ 5** 削除する CAR レコードの日付範囲を選択します。

**ステップ 6** [消去 (Purge)] をクリックすると、指定した日付よりも古いか、指定した日付間のすべてのレコードが削除されます。

指定したレコードを永久に削除しようとしていることを示すプロンプトが表示されます。

**ステップ 7** レコードを消去する場合は、[OK] をクリックします。[キャンセル (Cancel)] をクリックすると、消去操作が強制終了されます。

[OK] をクリックした場合、選択したテーブルからレコードが消去されます。レコードが正常に削除されると、テーブルから削除されたレコード数を示すステータスメッセージが表示されます。

## 自動データベース消去の設定

この項では、CAR データベースの自動消去をスケジュールし、無効にする方法について説明します。システムでは、デフォルトで、自動データベース消去が有効に設定されています。

### 手順

**ステップ 1** [システム (System)] > [データベース (Database)] > [自動消去の設定 (Configure Automatic Purge)] を選択します。

[データベースの自動消去の設定 (Configure Automatic Database Purge)] ウィンドウが表示されます。ウィンドウの上部に、使用されている CAR データベース領域の容量が % 単位で表示されます。使用可能な最大の CAR データベース領域が MB 単位で表示されます。

**ステップ 2** [最低水準値 (Low Water Mark)] ドロップダウン リスト ボックスから、システムで CAR データに使用する最大の CAR データベースサイズの、最小の割合 (%) を選択します。デフォルト値は 80 です。

ヒント CAR データベース サイズが下限値または上限値に到達した場合、システムによって通知されます。CAR データベース サイズがレコードの最大数を超えた場合も、通知されます。電子メールアラートの設定について。

**ステップ 3** [最高水準値 (High Water Mark)] ドロップダウンリストボックスから、システムで CAR データに使用する最大の CAR データベースサイズの、最大の割合 (%) を選択します。デフォルト値は 90 です。

**ステップ 4** [コール詳細レコードの最大保存期間 (Max Age of Call Detail Records)] フィールドに、CAR データベースで CDR を保持する最大日数を入力します。1 ~ 180 の範囲内の数を入力してください。デフォルト値は 60 日です。

CAR により、指定した日数よりも古いすべての CDR が削除されます。

(注) このウィンドウのフィールドにデフォルト値に戻す場合は、[デフォルトに戻す (Restore Defaults)] をクリックします。

**ステップ 5** [更新 (Update)] をクリックします。

変更内容は、午前 0 時に有効になります。変更をただちに有効にする場合は、Cisco CAR Scheduler サービスを再起動します。

(注) 2M または HWM 制限を超える場合

1. CAR は最も古い日付のパーティションからデータベースのパーティションを1つずつ削除します。
2. CAR は次の条件のいずれかに該当する場合、消去を停止します。
  - レコード数が 2M または HWM 制限を下回った場合。
  - 課金テーブル内に直近 2 日間のパーティションしかない場合。

課金テーブル内に多数の CDR があり、パーティションを削除してもレコード数が 2M または HWM 制限を下回らない場合、CAR はデータベースに少なくとも 2 日間のデータを保存します。

データベースのレコード数が 2M または HWM 制限に達した場合

1. CAR Loader は新しいレコードの処理を停止します。
2. CAR は、レコード数が 2M または HWM 制限に達するまで最も古いパーティションからレコードの消去を開始します。

レコードの削除後もレコード数が 2M または HWM 制限を下回らない場合、CAR は少なくとも 2 日間レコードを保持し、CAR Loader を停止します。また、CAR は CAR 管理者に手動消去を続行するように電子メール通知を送信します。

アップグレード後に、[データベースの自動消去の設定 (Configure Automatic Database Purge)] > **MAX DATABASE AGE** パラメータは次のいずれかに変更されます。

- 古いバージョンの MAX DATABASE AGE が 1 から 60 の場合、新しいバージョンで 60 に設定されます。
- 古いバージョンの MAX DATABASE AGE が 60 から 180 の場合、新しいバージョンで同じ寿命に設定されます。
- 古いバージョンの MAX DATABASE AGE が 180 より大きい場合は、新しいバージョンで 180 に設定されます。

## CAR システム イベント ログ

CAR では、さまざまなアクティビティのステータスを追跡するためにユーザが使用できるログが用意されています。イベント ログでは、自動的に生成されるレポート、CDR のロード、レポートの削除、データベースの消去など、CAR Scheduler によってトリガーされるイベントが追跡されます。

イベント ログでは、CAR Scheduler が制御するアクティビティのステータスについてのレポートが提供されます。イベント ログ レポートには、タスクが開始したか、正常に完了したか、処理中であるかが、示されます。

### イベント ログの生成

この項では、イベント ログ レポートを生成する方法について説明します。イベント ログには、日ごと、週ごと、または月ごとにスケジュールされたタスクまたはレポートのリストが含まれます。

Unified Communications Manager のこのリリースでは、新機能として、タスク モニタおよびデータベース メンテナンスが導入されています。

TaskMonitor では、その他のジョブのステータスが監視され、必要に応じて、IDS コマンド「onmode -F」を使用して Informix Dynamic Server (IDS) メモリがクリーンアップされます。DatabaseMaintenance では、IDS 推奨の最適化データベース管理「update statistics」手順が実行されます。

タスク モニタは、Scheduler が開始した約 1 分後と、Scheduler が毎日午前 0 時 (00:00) にスケジュールを再生成した約 1 分後に、開始されます。タスク モニタは、定期的に (5 分ごとに) tbl\_event\_log からすべてのジョブの 1 日のステータスを監視します。ただし、PopulateSchedules、TaskMonitor、DatabaseMaintenance、および DailyCdrLoad は監視しません。

前のタスクが実行中であるためにスケジュールにあるタスクが開始されない場合、次のような追跡メッセージが表示されることがあります。

```
2008-02-14 08:00:04, 602 WARN [main]サービス。(2008-02-14 08:00:04, 602 WARN [main] services.) スケジューラ:runTasks():ジョブ[DailyCdrLoad]スレッドはビジーなので、本日のスケジュールから削除され、開始されません。(Scheduler - runTasks(): Job [DailyCdrLoad] thread is busy, hence it will be removed from today's schedule and not be started!)
```

Scheduler により、10 秒間定期的にスリープする猶予期間が与えられ、次に、タスク スレッドが完了したかがチェックされます。Scheduler は、合計で最大2分間、スリープします。2分間待った後でも、タスク スレッドが完了していない場合、次のタスクが現在のスケジュールから削除され、次にスケジュールされた時間まで実行されません。

次の表に、タスク/レポートのリストおよびそのスケジュール頻度を示します。

表 7: タスク リスト

タスク	スケジュール頻度
CDR ロード	日次
タスク モニタ <sup>1</sup>	日次
データベース メンテナンス <sup>2</sup>	日次
QoS 通知	日次
料金限度通知	日次
データベース警告	日次
レポートの削除	日次
データベースの消去	日次
トラフィックの要約 - 時間	日次
上位 N 件の料金	日次
上位 N 件の接続時間	日次
上位 N 件のコール数	日次
会議 - 詳細	日次
トラフィックの要約 - 曜日	週次
会議ブリッジの使用状況 - 曜日	週次
ボイス メッセージングの使用状況 - 曜日	週次
ルート パターン/ハントパイロットの使用状況 - 曜日	週次
ルート/ハントリストの使用状況 - 曜日	週次
ルート グループの使用状況 - 曜日	週次
ゲートウェイの使用状況 - 曜日	週次
回線グループの使用状況 - 曜日	週次

タスク	スケジュール頻度
QoS の要約	月次
ゲートウェイの要約	月次
トラフィックの要約 - 日付	月次
システム概要	月次
部門課金の要約	月次
個人課金の要約	月次
上位 N 件の料金	月次
上位 N 件の接続時間	月次
上位 N 件のコール数	月次
会議 - 要約	月次

1

2

[34](#)

## 手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [ログ画面 (Log Screens)] > [イベントログ (Event Log)] を選択します。
- [イベントログ (Event Log)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 毎日実行されるジョブを選択する場合は、[日次 (Daily)] オプション ボタンをクリックします。毎週実行されるジョブを選択する場合は、[週次 (Weekly)] オプション ボタンをクリックします。毎月実行されるジョブを選択する場合は、[月次 (Monthly)] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ 3** [ジョブのリスト (List of Jobs)] 領域で、情報が必要なタスクを選択します。
- ステップ 4** 選択したタスクを [選択されたジョブ (Selected Jobs)] 領域に追加する場合は、右矢印アイコンをクリックします。
- ステップ 5** [選択されたジョブ (Selected Jobs)] 領域からタスクを削除する場合は、削除するタスクを選択し、左矢印アイコンをクリックします。
- ステップ 6** 頻度が異なるタスクを追加する場合は、前の手順を繰り返して行ってください。たとえば、毎日実行されるレポートと、毎月または毎週実行されるタスクが含まれるレポートについて、作業を行うことができます。

<sup>3</sup> システムでは、タスク モニタが自動的に設定され、実行されます。これは内部タスクで、毎日実行されます。

<sup>4</sup> データベース メンテナンスは、システムによって自動的に設定され、毎日実行される、内部タスクを表します。

**ステップ7** ステータスを選択し、レポートに含めます。次の表に示すように、少なくとも1つのステータスを選択する必要があります。

(注) システムでは、デフォルトで、各イベントログレポートのステータスが選択されます。

表 8: イベント ログ レポートのステータス

ステータス	説明
完了 (Complete)	このチェックボックスが選択されている場合、イベント ログ レポートには、完了したタスクが含まれます。
進行中 (In Progress)	このチェックボックスが選択されている場合、イベント ログ レポートには、処理中のタスクが含まれます。
中断 (Interrupted)	このチェックボックスをオンにすると、イベント ログには、管理者によって手動で中断されたか、またはDRS バックアップなどの管理プロセスによって中断されたタスクが含まれます。
失敗 (Unsuccessful)	このチェックボックスが選択されている場合、イベント ログ レポートには、失敗したタスクが含まれます。
スケジュール済み (Scheduled)	このチェックボックスが選択されている場合、イベント ログ レポートには、スケジュールされたがまだ開始されていないタスクが含まれます。

(注) Scheduler が再起動されると、ステータスがスケジュール済み (Scheduled) のすべての未完了ジョブが削除されます。ステータスが進行中 (In Progress) またはスケジュール済み (Scheduled) の現在のジョブは中断 (Interrupted) に変更されます。

**ステップ8** [開始 (From) ] と [終了 (To) ] の値を選択して、日付範囲を選択します。

**ステップ9** イベント ログ レポートを生成する場合は、[OK] をクリックします。  
イベント ログには、選択されたタスクについての情報が表示されます。

**ステップ10** 画面でログを右クリックし、[印刷 (Print) ] を選択して、印刷を行います。

(注) 最大2分間の猶予期間が与えられるので、次のスケジュールジョブの開始がスケジュールされる前に、処理中のジョブを終了させることができます。



## イベント ログ レポートの出力

表 9: イベント ログ レポートの出力

パラメータ	説明
シリアル番号 (SI No)	シリアル番号
ジョブ (Jobs)	タスクの名前
開始時刻 (Start Time)	タスクの開始時刻
終了時間 (End Time)	タスクの終了時刻
ステータス (Status)	失敗、処理中、完了
日付 (Date)	タスクがスケジュールされている日付

## CAR レポートの設定

CARを使用してレポートの生成を開始する前に、評価エンジン、QoS値、自動レポート生成、通知制限などの項目を設定します。

### 評価エンジン

CARを使用すると、時間の経過に伴って加算されていくコールのコストに対して、基本的な料金レートを設定できます。時刻および音声品質のファクタを適用することで、コストをさらに適正化できます。通常、この機能は加入者にサービス料金を請求することが必要になるサービスプロバイダーが使用します。組織によっては、アカウントティングや予算編成の目的でこの情報を使用し、組織内のユーザと部門の課金コストを決定することもできます。

これらの評価パラメータを使用するレポートとしては、個人用課金情報、部門用課金情報、課金情報別の上位 N 件、接続時間別の上位 N 件、コール数別の上位 N 件があります。



(注) 料金ベースやブロックのデフォルト値を変更しない場合は、ブロックあたりのデフォルト基本料金が 0 になるため、コストは常に 0 のままになります。

コールの料金は、コールの基本料金、時刻に応じた乗数、および音声品質に応じた乗数を乗算したもので構成されます。コールの基本料金は、[レポート設定 (Report Config)] > [評価エンジン (Rating Engine)] > [接続時間 (Duration)] ウィンドウで設定できます。次のリストを参照してください。

- 基本料金 = コスト (装置の数) × [ブロックの数 (Number of Blocks)] セクションで指定した接続時間ブロックに適用されます。
- ブロックの数 = コールの接続時間の合計数 (秒単位)。基本料金の適用対象になります。

時刻に応じた乗数は、[レポート設定 (Report Config)] > [評価エンジン (Rating Engine)] > [時刻 (Time of Day)] ウィンドウで設定できます。この設定の基準になるのは、コールの接続時刻です。

音声品質に応じた乗数は、[レポート設定 (Report Config)] > [評価エンジン (Rating Engine)] > [音質 (Voice Quality)] ウィンドウで設定できます。

### QoS 値

CAR は QoS レポートを生成します。これらのレポートで提示されるデータを格付けするために、CAR では、音声品質について設定した事前定義の値を使用します。ジッター、遅延、および損失パケットについて、最高、高、中、低に該当する値の範囲を指定できます。

### レポートの自動生成とアラート

CAR は、スケジュールに基づいて自動的にレポートを生成します。レポート生成には、日次、週次、月次の要約レポート、QoS レポート、トラフィック レポート、デバイスやルートプランの使用状況レポートなど、定期的に確認する必要のあるレポートを含めることができます。

### 通知限度

QoS および 1 日あたりの料金については、限度を指定できます。これにより、これらの限度を超えた場合、管理者に電子メールでアラートが送信されます。このアラートは、Cisco Unified CM の管理で CAR 管理者として指定されたすべてのユーザに送信されます。

## CAR 評価エンジン

コールの基本レート、接続時間、時刻、および音声品質の評価パラメータを定義するには、CAR 評価エンジンを使用します。



(注) コールの評価パラメータは、CAR のロード中に使用されます。CAR データベース内の古い CDR レコードに対して、これらのパラメータの新しい値を使用する場合は、すべての CDR を CAR データベースにリロードする必要があります。

### 基本レートの設定

コールのコストの基準を設定するには、すべてのコールについて基本レートを指定する必要があります。たとえば、現在のサービスプロバイダが 1 分につき 6 セントのレートで 10 秒ごとに細分化して課金（細分課金）している場合は、すべてのコールに課金される基本レートを、10 秒につき 1 セントとして設定します。

この項では、基本料金と接続時間の値を設定する方法について説明します。



- (注) デフォルトの基本料金値を使用する場合は、レポートにコストが提示されません。システムにはデフォルト値が設定されていますが、このデフォルトのままにした場合、評価エンジンはディセーブルのままになり、コストを提示しません。

## 手順

**ステップ 1** [レポート設定 (Report Config)] > [評価エンジン (Rating Engine)] > [期間 (Duration)] を選択します。

[通話時間 (Call Duration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [終了 (秒) (To(seconds))] フィールドに、基本料金の適用対象となる秒数を入力します。たとえば、6 秒ごとに課金される場合は、このフィールドに 6 を入力します。コールの実際の接続時間にかかわらず、分単位の単純レートで課金される場合は、このフィールドに 60 を入力して、料金が分単位の接続時間に基づいて計算されるようにします。

**ステップ 3** [基本料金/ブロック (Base Charge/Block)] フィールドに、[終了 (秒) (To(seconds))] フィールドに表示されている秒数に対する基本コストを入力します。たとえば、1 分あたり 6 セントの料金を 6 秒ごとに細分化して課金 (細分課金) される場合は、このフィールドに 0.006 を入力します。分単位の接続時間に対して 1 分間につき 7 セントの料金を課金される場合 (細分課金なし) は、このフィールドに 0.07 を入力します。

上記の例では、6 秒ごとに課金されていてコストが 6 秒ごとに 0.006 である場合、7 秒間のコールのコストは 0.012 になります。根拠：6 秒ごとに 0.006 のコストがかかり、0～6 秒までのブロックが 2 個発生しています。

同様に、分単位の接続時間に対して課金され、コストが 1 分間につき 7 セントである場合、3 分間のコールには 21 セントのコストがかかります。根拠：60 秒ごとに 7 セントのコストがかかり、1 分間のブロックが 3 個発生しています。

**ステップ 4** [更新 (Update)] をクリックします。

ヒント デフォルト設定に戻すには、[デフォルトに戻す (Restore Defaults)] をクリックします。コールの料金やブロックをデフォルト値の 0 に戻すと、コールコストの決定に使用されるその他のファクタは、実質上無効になります。

## 時刻のファクタ

コールのコストをさらに細かく定義するには、特定の時刻に応じた乗数を指定します。たとえば、昼間のコールに対して加入者に割増料金を課金する場合は、[通話時間 (Call Duration)] ウィンドウで指定した 1 ブロックあたりの基本料金に対して、乗数を適用できます。

この項では、コールのコストが増加する特定の時刻を設定する方法について説明します。



(注) 時刻によるコールコストの増加を避ける場合は、デフォルト値を使用できます。デフォルトの乗数は1になっているため、時刻によるコールコストの増加は発生しません。

#### 手順

**ステップ1** [レポート設定 (Report Config)] > [評価エンジン (Rating Engine)] > [時刻 (Time of Day)] を選択します。

[時刻 (Time of Day)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ2** 行を追加するには、[行の追加 (Add Rows)] リンクをクリックします。

システムは、00:00:00 ~ 23:59:59 の行を追加します。

**ステップ3** 行をさらに追加するには、新しい行を追加する場所の下にある行のチェックボックスをオンにし、[行の追加 (Add Rows)] リンクをクリックします。

(注) 行を削除するには、削除する行のチェックボックスをオンにして、[行の削除 (Delete Rows)] リンクをクリックします。

**ステップ4** [開始 (From)] と [終了 (To)] の時刻範囲に、時、分、秒を24時間制で入力します。デフォルトの時刻範囲は、24時間 (00:00:00 ~ 23:59:59) です。1つの時刻範囲 (午前8時~午後5時) を設定するには、3つの時刻範囲 (最初は00:00:00 ~ 07:59:59、2番目は08:00:00 ~ 16:59:59、3番目は17:00:00 ~ 23:59:59) を設定する必要があります。

(注) 時刻をコールコストに算入する場合は、12時間制ではなく協定世界時 (UTC) を使用する必要があります。

**ステップ5** [乗数 (Multiplication Factor)] を入力します。この値は、指定した時刻範囲にコールが発生した場合に、1ブロックあたりの基本料金に掛ける数値を指定するものです。たとえば、午前8時~午後5時に発信されたコールに対して2倍の割増料金を課金する場合、乗数は2.00になります。乗数が1.00である場合は、コールのコストに影響しません。

**ステップ6** 時刻および乗数を追加するには、[更新 (Update)] ボタンをクリックします。

ヒント デフォルト設定に戻すには、[デフォルトに戻す (Restore Defaults)] をクリックします。

## 音声品質のファクタ

コールのコストをさらに細かく定義するには、コールの音声品質に応じた乗数を指定します。たとえば、最高の音声品質のコールを確保するために、加入者が割増料金を支払う場合は、[通話時間 (Call Duration)] ウィンドウで指定した1ブロックあたりの基本料金に対して、音声品質に応じたさまざまな乗数を適用できます。1.00以外の乗数を使用すると、さまざまな音声品質のコールを区別する場合にも役立ちます。

この項では、特定の音声品質のコールに対して追加コストを課金する場合に、コールコストを設定する方法について説明します。



- (注) 音声品質によるコールコストの増加を避ける場合は、デフォルト値を使用できます。デフォルトの乗数は 1.00 になっているため、音声品質によるコールコストの増加は発生しません。

#### 手順

**ステップ 1** [レポート設定 (Report Config)] > [評価エンジン (Rating Engine)] > [音質 (Voice Quality)] を選択します。

[音質 (Voice Quality)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [Multiplication Factor] フィールドに、指定した音声品質カテゴリのコールが発生した場合に 1 ブロックあたりの基本料金に掛ける数値を入力します。[QoS 値の定義 (Define QoS values)] セクションでは、音声品質カテゴリ (最高、高、中、および低) が定義されています。

#### 例

音声品質 (最高) : ファクタ 1.2

音声品質 (高) : ファクタ 1.0

音声品質 (中) : ファクタ 1.0

音声品質 (低) : ファクタ 0.8

最高品質のコールには、高品質または中品質のコールの 1.2 倍の料金が課金されます。低品質のコールには、高品質または中品質のコールの 0.8 倍の料金が課金されます。

- (注) 最高品質コールの乗数  $\geq$  高品質コールの乗数  $\geq$  中品質コールの乗数  $\geq$  低品質コールの乗数にしてください。

**ステップ 3** シックアップデート。

ヒント デフォルト設定に戻すには、[デフォルトに戻す (Restore Defaults)] をクリックします。

## QoS 値の定義

QoS 値は、最高、高、中、および低の各基準に基づいて、損失パケット、ジッター、および遅延について設定します。

コールが 4 つの音声品質カテゴリに設定されたどの基準も満たさない場合、そのコールは NA (該当なし) に分類されます。同様に、CMR データを生成するようにシステムが設定されていない場合 (または、CMR が不良の場合)、CMR は NA (該当なし) に分類されます。

パラメータの値を無視するには、NA と入力します。たとえば、ジッターなどの QoS パラメータには NA が使用され、QoS は最高として定義されます。つまり、QoS は、遅延および損失パケットの値にのみ依存します。3つのパラメータの値を、すべて NA にすることはできません。Infinity は、それぞれのパラメータの最大値を表します。ジッターの値が 500 ~ Infinity である場合は低と見なす、というルールを指定すると、ジッターが 500 を超えるコールは低として分類されます。



(注) 「NA」および「Infinity」という分類では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

この項では、QoS の値を定義する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** [レポート設定 (Report Config)] > [QoS の定義 (Define QoS)] を選択します。

[QoS の定義 (Define Quality of Service)] ウィンドウが表示されます。次の表に、QoS のデフォルト値を示します。

表 10: QoS のデフォルト値

QoS パラメータ	デフォルト
損失パケット (Lost Packets)	最高 : 0.00 ~ 15.00、高 : 15.01 ~ 30.00、中 : 30.01 ~ 45.00、低 : 45.01 ~ Infinity
ジッター (Jitter)	最高 : 0 ~ 20、高 : 21 ~ 100、中 : 101 ~ 150、低 : 151 ~ Infinity
遅延 (Latency)	デフォルト値なし

**ステップ 2** 行を追加するには、新しい行を追加する行の上にあるチェックボックスをオンにし、[行の追加 (Add Rows)] リンクをクリックします。

チェックボックスをオンにした行の上に新しい行が追加され、チェックボックスはオフになります。

これらの行は、QoS レポートで状態を最高、高、中、低に格付けするときに、CAR で使用される値を表します。設定する値ごとに、上限値と下限値を [開始 (From)] カラムと [終了 (To)] カラムに入力します。

(注) 行を削除するには、削除する行のチェックボックスをオンにして、[行の削除 (Delete Rows)] リンクをクリックします。

**ステップ 3** 設定した値ごとに、[QoS (Quality of Service)] を選択します。

**ステップ 4** [更新 (Update)] をクリックします。

ヒント デフォルトの QoS 値を復元するには、[デフォルトに戻す (Restore Defaults)] をクリックします。

## CAR レポートの自動生成とアラート

はじめる前に

CAR を使用してレポートの生成を開始する前に、システムを設定する必要があります。

次の表に、自動生成をイネーブルまたはディセーブルにするレポートのリスト、レポート生成間隔、およびレポートの受信者を示します。

表 11: 自動生成されるレポート

レポート名	レポート生成間隔	受信者
部門課金の要約	月次	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CAR マネージャ</li> <li>• CAR 管理者</li> </ul>
ゲートウェイの要約	月次	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CAR 管理者</li> </ul>
個人課金	月次	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Unified CM で設定した各ユーザ</li> <li>• CAR 管理者</li> </ul> <p>(注) 管理者ユーザは、このレポートにはアクセスできません。</p>
個人課金の要約	月次	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Unified CM で設定した各ユーザ</li> <li>• CAR マネージャ</li> <li>• CAR 管理者</li> </ul>
会議要約	月次	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CAR 管理者</li> </ul>
会議詳細	日次	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CAR 管理者</li> </ul>
QoS の要約	月次	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CAR マネージャ</li> <li>• CAR 管理者</li> </ul>

レポート名	レポート生成間隔	受信者
システム概要	月次	• CAR 管理者
上位 N 件の料金	日次	• CAR マネージャ • CAR 管理者
上位 N 件の料金	月次	• CAR マネージャ • CAR 管理者
上位 N 件の接続時間	日次	• CAR マネージャ • CAR 管理者
上位 N 件の接続時間	月次	• CAR マネージャ • CAR 管理者
上位 N 件のコール数	日次	• CAR マネージャ • CAR 管理者
上位 N 件のコール数	月次	• CAR マネージャ • CAR 管理者
トラフィックの要約 - 日付	月次	• CAR 管理者
トラフィックの要約 - 曜日	週次	• CAR 管理者
トラフィックの要約 - 時間	日次	• CAR 管理者
会議ブリッジの使用状況 - 曜日	週次	• CAR 管理者
ボイスメッセージングの使用状況 - 曜日	週次	• CAR 管理者
ルートパターン/ハントパイロットの使用状況 - 曜日	週次	• CAR 管理者
ルート/ハントリストの使用状況 - 曜日	週次	• CAR 管理者
ルートグループの使用状況 - 曜日	週次	• CAR 管理者



レポート名	レポート生成間隔	受信者
回線グループの使用状況 - 曜日	週次	• CAR 管理者
ゲートウェイの使用状況 - 曜日	週次	• CAR 管理者



- (注) ゲートウェイ、ルートグループ、ルートリスト、およびルートパターンが多数ある大規模な構成では、すべての使用状況レポート（ゲートウェイ使用状況、回線グループ使用状況、ルートグループ使用状況、ルートリスト使用状況、およびルートパターン使用状況）をイネーブルにすると、システムのCPU使用率が上昇し、レポートの生成時間が長くなります。また、システムのパフォーマンスにも影響します。自動生成は、ゲートウェイ使用状況についてのみイネーブルにすることを推奨します。これは、通常、大規模なシステムでもゲートウェイの数は少ないためです。どの使用状況レポートも、5個以下のゲートウェイ、ルートグループ、ルートリスト、またはルートグループを選択して、すべてオンデマンドで生成できます。

レポートを自動生成するプロセスは、次の2つの手順で構成されます。

- まず、生成するレポートをイネーブルにします（デフォルトでイネーブルになっていない場合）。
- 次に、レポートを生成する日時をスケジュールします（CARには、デフォルトのスケジュールが用意されています。デフォルトのスケジュールをそのまま使用できる場合は、自動的に生成するレポートをイネーブルにするだけで済みます）。

CARは、さまざまなイベントについて電子メールアラートを提供します。システムで電子メールアラートをイネーブルにするプロセスは、2つの手順で構成されます。

- まず、電子メールアラートをイネーブルにします。デフォルトでは、すべてではなく一部のレポートでイネーブルになっています。
- 次に、アラート基準を満たしたときに送信される電子メールを設定します。

## 自動生成レポートのイネーブル化

この項では、1つまたはすべてのレポートの自動生成をイネーブルまたはディセーブルにする方法について説明します。また、レポートパラメータをカスタマイズしてメール送信オプションを有効にすると、レポートが作成されたときに電子メールで送信されるようにすることもできます。レポートをメールで送信されるようにする場合、CARは、CAR管理者のメールIDと[メールパラメータ (Mail Parameters)] ウィンドウで設定されたメールアドレスを使用して電子メールアドレスを生成します。つまり、CARは、<CAR 管理者のメール ID> @<[メールパラメータ (Mail Parameters)] ウィンドウで設定されたドメイン>を使用します。

Unified Communications Manager を新しくインストールした際には、必ず最初にEメールアラートとレポートの自動生成を有効にする必要があります。すべてのレポートおよびアラートのデフォルトのステータスは「無効 (Disabled)」です。

Unified Communications Manager リリース 5.x からそれ以降のリリースへのすべての Unified Communications Manager アップグレードでは、CAR Scheduler サービスがアクティブな場合にのみ、tbl\_pregenmail\_option テーブルのデータが移行されます。

それ以外のバージョンの Unified Communications Manager にアップグレードする場合は、システムリソースを節約するために、アップグレードの処理中はすべてのレポートおよびアラートを無効にしてください。アップグレード完了後には、レポートおよびアラートをイネーブルにすることを忘れないでください。

デフォルトでイネーブルになるレポートについては、[レポート生成スケジュール](#)で説明しています。

## 手順

- ステップ 1** [レポート設定 (Report Config)] > [自動作成/警告 (Automatic Generation/Alert)] を選択します。  
[レポートの自動作成/警告オプション (Automatic Report Generation/Alert Option)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [レポート[レポートの作成間隔] (Reports [Report Generation Interval])] ボックスで、システムスケジュールで定義したスケジュールに基づいて自動生成するレポートを選択します。[CDR ロードスケジュールの設定 \(25 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 3** [ステータス (Status)] フィールドで、[有効 (Enabled)] または [無効 (Disabled)] を選択します。
- ステップ 4** レポートをカスタマイズする、または生成されたレポートが電子メールで送信されるようにするには、[パラメータのカスタマイズ (Customize Parameters)] ボタンをクリックします。  
[パラメータのカスタマイズ (Customize Parameters)] ウィンドウが表示されます。  
(注) 各レポートのカスタマイズオプションは、レポートのタイプに応じてそれぞれ異なります。
- ステップ 5** メールで送信するレポートのタイプに応じて、[CSV] オプション ボタンまたは [PDF] オプション ボタンを選択します。
- ステップ 6** レポートがすべての CAR 管理者に電子メールで送信されるようにするには、[メール送信オプション (Mailing Option)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 7** 指定した値を保存するには、[更新 (Update)] をクリックします。  
[パラメータのカスタマイズ (Customize Parameters)] ウィンドウが閉じます。
- ステップ 8** 他のレポートをイネーブルにする、またはカスタマイズするには、前の手順を繰り返して行ってください。
- ステップ 9** [更新 (Update)] をクリックします。

変更内容は、午前0時に有効になります。CAR Scheduler サービスを一旦停止し再起動すると、変更内容をすぐに有効にできます。

## 電子メール アラートの有効化

2種類の電子メールによるアラートを使用できます。これらのアラートは、次のとおりです。

- 料金限度通知
- QoS 通知

これらのアラートを設定する方法については、[通知限度の設定 \(51 ページ\)](#) を参照してください。

この項では、これらのアラートをイネーブルにして、ユーザにメールで送信する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** [レポート設定 (Report Config)] > [自動作成/警告 (Automatic Generation/Alert)] を選択します。

[レポートの自動作成/警告 (Automatic Report Generation/Alert)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [メールによる警告 (Alerts by Mail)] ボックスで、イネーブルまたはディセーブルにするアラートを選択します。

**ステップ 3** [ステータス (Status)] フィールドで、[有効 (Enabled)] または [無効 (Disabled)] を選択します。

**ステップ 4** [更新 (Update)] をクリックします。

**ステップ 5** メールによるアラートをイネーブルまたはディセーブルにするには、前の手順を繰り返して行ってください。

変更内容は、午前0時に有効になります。CAR Scheduler サービスを一旦停止し再起動すると、変更内容をすぐに有効にできます。

## CAR レポートの通知限度

はじめる前に

CAR を使用してレポートの生成を開始する前に、システムを設定する必要があります。

### 通知限度の設定

この項では、QoS および 1 日あたりの料金の通知限度を指定する方法について説明します。

## 手順

---

**ステップ1** [レポート設定 (Report Config)] > [通知限度 (Notification Limits)] を選択します。

[通知の限度の設定 (Set Limits for Notification)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ2** [日次 QoS パラメータ (Daily QoS Parameters)] 領域に、最高品質コールと低品質コールのしきい値を入力します。

しきい値は、すべてのコールにおける割合 (%) の形で適用されます。このしきい値を超えると、管理者に電子メールアラートが送信されます。最高品質コールのデフォルトは、20% 未満です。これは、最高品質コールが 1 日あたりのすべてのコールの 20% 未満であった場合、アラートが送信されることを意味します。低品質コールのデフォルトは、30% 超過です。これは、低品質コールが 1 日あたりのすべてのコールの 30% を超えた場合、アラートが送信されることを意味します。このアラートを QoS 通知と呼びます。

**ステップ3** [1 日あたりの料金の限度 (Daily Charge Limit)] 領域に、(ドル、フラン、ポンドなどの) 通貨を単位とする数値を入力します。システム内のいずれかのユーザの料金がこの値を超えた場合は、管理者に電子メールアラートが送信されます。このアラートを、料金限度通知と呼びます。

**ステップ4** [更新 (Update)] をクリックします。

変更内容は、ただちに有効になります。新しい値は、次回にアラートが送信されるときに使用されます。

---

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。